



ABCアナウンサー
堀江政生の

Sinfonia
Hour



シンフォニア・アワー

クラシックの意外な裏話や、ザ・シンフォニーホールにまつわる話など、
ここだけのとっておきエピソードをご紹介します。

vol.2 「虎党の私はこの曲を『巨人』ではなく1番と呼ぶ

私はこの曲が苦手です。いえ、曲はいいんです。副題が駄目なんです。子どもの頃から虎党を公言してはばからなかったこの私が、レコードショップで大きく「巨人」と書かれたジャケットのレコードを買うなんて。虎のカレンダーやグッズが並ぶ部屋のレコードの棚に「巨人」が鎮座するなんて。ああ、魂は売りたいくない!! でも曲は聴きたい!! こんな副題をつけたマーラーはなんて罪作りなんだ!!!

閑話休題。マーラーは大きな木槌で床を叩いたり(6番)オーケストラとは組み合わせないようなマンドリンを入れたり(7番)と、交響曲の世界で新たなチャレンジを多くしています。この1番では、進軍ラッパが遠くで鳴っているかのようにトランペット隊が舞台の奥で演奏したあと、1楽章の途中で舞台上の本来の席に就きます。また、普段は低音を支えたり、リズムを刻んだりしているコントラバスが、3楽章の冒頭でメロディをソロで弾くのも珍しいことです。

以前ザ・シンフォニーホールで大阪フィルハーモニー交響楽団取材していた時、メインがこの曲でした。その時のエピソードを…

コンサートの第一部が終わって休憩中、舞台裏でコントラバスの首席奏者が、どうも落ち着きがありません。うろうろしたり、座ったり立ったり。「俺、今から舞台に行って3楽章のメロディをさらってきていいかな?」とメンバーにささやきました。コントラバスは楽器が大きいだけに休憩中は舞台に置きっぱなし。休憩中に裏で練習できない。やさしいメンバーは「行ってきたら?お客さんから拍手来るかもね」。すると、「やっぱりその勇気ないな〜」。コントラバス奏者の晴れ舞台。でもマーラーはやっぱり罪作りかもしれない。

曲が始まり、1楽章。舞台下手袖で、指揮者を映したモニターを見ながら、トランペット隊の演奏です。客席で聴いていると小さな音ですが、結構大きな音です。こういうバランスは難しいだろうなと思って聴いていましたが、そのあとの首席トランペット奏者の言葉がフルっていました。「では、みなさん、堂々と入場しましょう! コソコソ入ると遅刻したみたいですから」

マーラーのチャレンジは、演奏者にとってもチャレンジだったようですね。一方、マーラーが苦手という人には、この1番がチャレンジしやすい入門編といえるでしょう。虎党の方が例の副題さえ気にしなければ…

公演の聴きどころ、豪華ゲストを招いてのお話など、名曲とともにご紹介!



堀江政生のザ・シンフォニーホール・アワー

ABCアナウンサー堀江政生氏が、豊富なクラシックの知識を余すところなく語る30分。

1008 ABC Radio

毎週日曜日

あさ7時5分〜7時35分